

# 「サーバリックス」と「ガーダシル」の違い

## 2種類のワクチンから選択できます

子宮頸がんワクチンは、「サーバリックス」と「ガーダシル」の2種類から、ご希望のワクチンを選択できます。どちらのワクチンも公費で接種できますが、どちらかのワクチンを接種すると、途中から他方のワクチンに変更することはできません。以下に、2つのワクチンの差をまとめます。

	サーバリックス	ガーダシル
予防できるHPVの型	HPV 16型・18型（高リスク型）	HPV 16型・18型（高リスク型） HPV 6型・11型（低リスク型）
効能・効果	ヒトパピローマウイルス 16, 18 型感染に起因する以下の疾患の予防 ・子宮頸癌およびその前駆病変 ・子宮頸部上皮内腫瘍 2, 3	ヒトパピローマウイルス 6, 11, 16, 18 型感染に起因する以下の疾患の予防 ・子宮頸癌およびその前駆病変 ・子宮頸部上皮内腫瘍 1, 2, 3、上皮内腺癌 ・外陰上皮内腫瘍 1, 2, 3 ・膣上皮内腫瘍 1, 2, 3 ・尖圭コンジローマ
接種回数	3回接種（初回、1ヶ月後、6ヶ月後）	3回接種（初回、2ヶ月後、6ヶ月後）
注射部位の疼痛	99.0%	82.7%

まとめ

### 1. ガーダシルの方が予防できる病気が多い

HPVウイルスには多数の型があり、最近では子宮頸がんの原因になるHPV 16, 18型はどちらのワクチンでも予防できます。尖圭コンジローマなどの原因になるHPV 6, 11型はガーダシルでは予防できますが、サーバリックスでは予防できません。

### 2. HPV16, 18型の抗体価（効果の指標）はサーバリックスの方が高い

サーバリックスの方がガーダシルよりも抗体価が高いのですが、実際の子宮頸がんの予防効果には、あまり差がないと言われています。効果の持続時間が長いという可能性はあります。

### 3. 副反応

若干サーバリックスの方が副反応（注射後の痛みなど）の頻度が少し多いようです。

現在までのデータでは、子宮頸がんの予防効果について言えば、差がわかっていないというのが実情でどちらを打っても大差はないと考えます。子宮頸がん以外のいくつかの病気も防げるという意味ではガーダシルが有利です。

